

## 1 オールの全長

●ハンドルの端から、カラーの「フェイス」（オールロックに当てる面）までをインボードといいます。そこからブレードの先端までがアウトボードです。アウトボードは、水面からのワーク高とともに、「シャフトと水面のなす角度」に影響します。水面との角度が小さすぎると、バランスに対する許容範囲が狭められ、漕ぎにくくなります。ある程度の角度を持つことが大切です。

●最近のオールは、「アジャスタブルハンドル」が主流です。シャフト部分やハンドルの端にネジがあり、長さを調整できます。これはこれでオールのリギングに便利なのですが、水が侵入しやすく、注意も必要です。また整備を怠ると、抜けなくなって苦勞することがあります。

## 2 オールの重さと重心

●昔のオールは重たく、特にスweepオールは、手で持ち上げるのではなく「手を載せておく」という感触でした。キャッチでは載せた手の体重を抜き、つまり自分で「手を支える、持ち上げる」ことで、ブレードを自然に落とすという感覚でした。しかしそのイメージは、現在の軽いオールでは薄れています。

●オールの重心の位置を確認しておきましょう。重心は、スリーブよりも外、つまりブレード側にあります。ハンドルの上下動は、ドライブでもフォワードでも、オールロックの上下に強く影響します。

## 3 てこ比、カラー

●オールの負荷を決めるひとつの要素が、アウトボードとインボードの比で、「テコ比」と言います。テコ比は、カラーの位置や調整ハンドルで調整できます。

●カラーは漕いでいるとき緩むと危険です。しっかり固定しておく必要があります。しかし強く締めすぎると、破損することもあります。乗艇の際は、緩んでいないか、破損していないか頻繁に、たとえば艇を旋回するときには確認しましょう。

## 4 ブレードの形

●ブレードにはいくつかのタイプがあります。伝統的なブレードは上下が対称的でマコンと呼ばれるものです。1990年以降の主流は、上下非対称のビッグブレードです。上半分は先端で幅広く、下半分は付け根が幅広くなっています。ブレードの中心軸上の盛り上がりがなく全体的に平面的で、上の縁に伏せ角がついているのはスムーシーというタイプです。ブレードの先端に、細かな凹凸をつけたものは、ボルテックスエッジと言います。

## 5 ブレードピッチ

●ブレードピッチは、オールのブレード面とスリーブのフェイスのなす角度のことです。そのオール固有のブレードカバー角となります。マコンでは、単純に定義できますが、ビッグブレードでは、先端ではなく、特別の計り方をします。ブレード形状によって、正しい測定をしなくてはなりません。